

川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書
「農作物日記」

——翻刻と解説——

“Diary of Crops” in Ito Family Collection, In Japan
Open Air Folk House Museum:
Reprint and Commentary

真保 元

キーワード：日本民家園，多摩丘陵，農家，日記，伊藤家

目次

はじめに

一、資料概要

二、翻刻「農作物日記」

三、解説

おわりに

謝辞

注

参考文献

はじめに

本稿は川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「農作物日記」の翻刻といくつかの解説を行うものである。

川崎市立日本民家園（以下民家園）は昭和四十二年（一九六七）に開園し、以来国内各地の文化財建造物を二十五件保存・展示を行っている。本稿で対象とする伊藤家は現在の神奈川県川崎市麻生区金程より移築した民家であり、民家園開園のきっかけとなった民家で

もある。

筆者はこれまでも伊藤家をめぐる資料である「種苗日記帳」(2021-001-D-151)、「防除の志おり」(2021-001-D-152) について報告を行ってきた〔真保二〇二二〕^三、真保二〇二四〕。そのため、伊藤家をめぐる議論および詳細な概要については拙稿を参照されたい。

さて、本稿で対象とする「農作物日記」も「農作物日記」などと同じく令和三年（二〇二二）度に伊藤家現当主である伊藤廣一氏より寄贈を受けた。本稿では当該資料の概要をおさえたうえで翻刻を示し、解説を行う。

一、資料概要

本章では翻刻の提示にあたって、基礎情報である伊藤家の概要と資料概要をおさえる。

まずは伊藤家の概要について整理しよう。伊藤家の所在地は神奈川県川崎市麻生区金程である。拙稿でもふれたように、当該地域は一九八〇年代からの区画整理で田畑山林の大半はベッドタウンとなったが〔真保

二〇二四・一三八（六九）、本稿の翻刻対象となる「農作物日記」の記述時期は昭和二十年（一九四五）から昭和二十八年（一九五三）である。当時の金程は田畑山林が広がる景観であった。参考までに、当時の地図を掲載しておく（図1）（1）。

次に資料概要を示す。資料名は「農作物日記」（管理番号：2021-001-D-154）である（図2）。状態は横帳で、総ページ数は三十六ページである。これに表紙と裏表紙がつく。三十六ページは松林堂という会社の筆類の広告が掲載されている。表紙には「農作物日記」の字があり、裏表紙は何も記載されていない。裏表紙裏には「伊藤」の記載がある。本資料の記述内容としては各年の生産高や栽培状況である。中は鉛筆書きで記されている。字の色は黒字が中心だが、十四ページや十五ページのように赤字が用いられることもある。当該資料は昭和二十年と昭和二十八年の記録が記されている。

ここまで本章では伊藤家および資料の概要について述べてきた。次章では翻刻を示す。

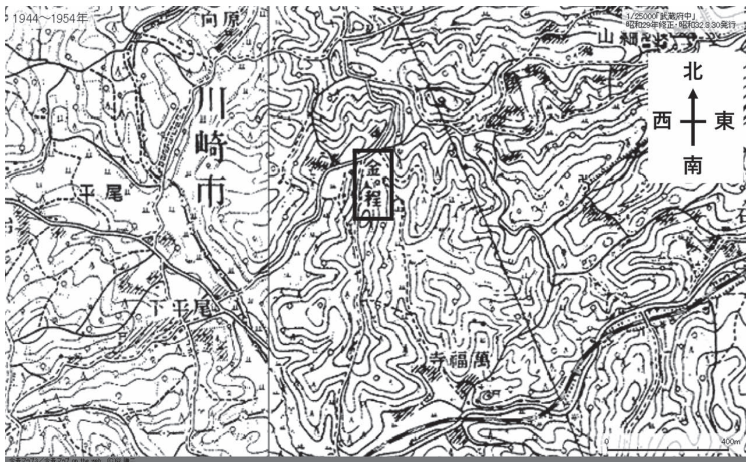


図1 昭和20年代の金程の地図（「今昔マップ3」）（C）谷 謙二より筆者作図

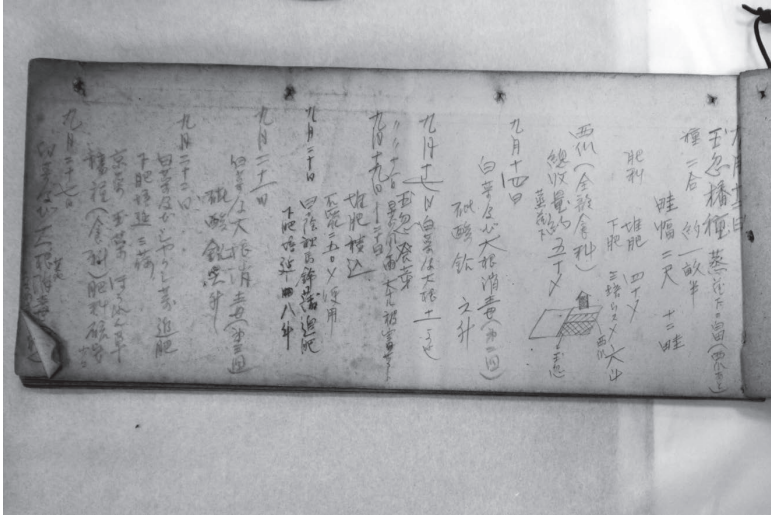


図2 「農作物日記」1 ページ目 (川崎市立日本民家園所蔵)

二、翻刻「農作物日記」

凡例

本稿では、翻刻にあたり、左記のような統一、加筆を行った。

- (一) 本稿では川崎市立日本民家園所蔵「農作物日記」(2021-001-D-154)「川崎市立日本民家園(編)一〇二二・二三」のうち、表紙から三十五ページを翻刻した。
- (二) 次のように翻刻した。

- ①資料の閲覧性を考え、元の資料にはないページ数を「【】」でページ数頭にあたる部分に記載した。そのため、ページが変わる部分で元の資料には存在しない改行を施している。その他、閲覧性を考慮し、一部表記を改めたところがある。
- ②資料内の赤字や赤線で記されている箇所は、翻刻の際に太字や太線で表記した。
- ③漢字は原則として原文から改めずに表記した。
- ④仮名遣いは原文通りである。

⑤ 個人名は文字数に応じて■で、判読不明な文字は

□で、そのうちおそらく字が特定できるものには

(筆者注…カ)と注記した。その他、必要に応じて

(筆者注…)と注を入れてある。

【表紙】

農作物日記 昭和20年9月ヨリ (筆者注…横書き)

【二ページ目】

九月一二日

玉葱播種 蒸□下の畠 (西瓜あと)

種二合 約一畝半

畦幅二尺 十二畔

肥料 堆肥 四十メ

下肥 三培ウスメ六斗

西瓜 (全部食料) (筆者注…西瓜と玉葱の栽培位置を示

していると思われる絵あり)

総収量約五十メ

蒸□下

九月十四日

白菜及び大根消毒 (第二回)

□ (硫カ) 酸鉛 六升

九月十七日 白菜及大根土よせ

玉葱発芽

クク十八日 暴風雨大ナル被害□□

九月十九日—二十日

堆肥積込

石灰□二五〇メ使用

九月二十日 日陰秋馬鈴薯追肥

下肥□延—四八斗

九月二十一日

白菜及大根消毒 (第三回)

□ (硫カ) 酸鉛六升

九月二十二日

白菜及びシヤクシ菜追肥

下肥□延三荷

京菜 玉葱 ほうれん草

播種 (金科) 肥料硫酸安少々

九月二十七日

白菜及び大根其他消毒 うろぬき (硫酸鉛八

升)

大畠 半俵

十月十五日

甘藷堀り

供出十九俵

品種農林四号

□ (平カ) 見西側片割

約二百メ余

十月十六日

陸稻刈り

□ □ (シクカ) 山日陰各□分

クク十七日

陸稻上げ

三十入束

十月十七日—十八日

砂糖しぼり

□ (生カ) 水 (手桶二十杯)

製糖約一□升

十月十九日 陸稻こき

丁四束こく (朝□)

九月二十七日

白菜及び大根其他消毒 うろぬき (硫酸鉛八

升)

【二ページ目】(筆者注…記載なし)

【三ページ目】

九月二十九日迄 □ヨリ 堆肥切返し

九月三十日

大根及葱追肥

玉葱馬鹿植へる

大根—下肥三荷

葱—二荷切□ (藁カ) 四十メ

玉葱□肥十メ

岡□ (上カ) にて柿数メ戴く

十月二日

白菜・シヤクシ菜 うろ□ (十五メ)

白菜成績良好なり

十月十日 大豆□□

□□□ 二俵□

【四ページ目】(筆者注…元の資料では天地が反転して

表記されている)

小麦播種(日蔭)

面積 五畝 | 品種農林十六号

肥料 硫酸 四メ

堆肥 主苗□メ

百五拾メ (かご十二杯)

点播

畦幅 二尺三寸

十月二十二日

大麦播種(三角畑及日蔭)

面積 三角三畝

日蔭十□畝二畝半

三角 □□ (修播カ)

畦幅 三尺

肥料 硫酸 二・五メ

堆肥 百三十メ

日蔭

点播

畦幅三尺三寸

硫酸二・五メ

堆肥 八十メ

十月二十三日

大麦播種(日蔭一部)

面積一・五畝 | 点播

堆肥 五十メ | 畦幅二・三尺

硫酸二メ

十月二十四日

大麦播種(一部日蔭)

点播面積八畝

畦巾二・三尺

堆肥三百メ

配合七メ

十月二十五日

(日蔭)

小麦播種

面積 三畝

点播

畦巾二・三尺

堆肥 百メ

配合一ノ

十月 二十六日

【五ページ目】

□

南瓜豫定地

十月二十七日

大麦播種 (□□□一部)

クククク

小麦播種 (二畝割)

点播 二尺三寸畦

堆肥 五十ノ

配合 一ノ

十月二十八日

大麦播種 (□□□全部)

二十六・二十七・二十八日總合

畦巾 八尺 (南瓜豫定地)

廣幅□ (修カ) □

堆肥二百五十ノ

配合三ノ

面積 (全面積)

一反一畝

十月二十八日

陸稻こき (朝作)

二十六束

陸稻全部終了

七十五束□り

十月二十八—二十九日

(小南) 小麦播き (庭下)

面積三畝 点播

堆肥 六十ノ

下肥 五十ノ

畦巾 二—三尺

十月三十日

小麦播き (□□□□ (裸麦二ツカ))

品種小南

面積八畝

堆肥 二百ノ

下肥 二百ノ (□延)

畦巾 二・三尺

【六ページ目】

十月三十一日

□ (平カ) 見甘諸収□ (穫カ)

金時

四畝 百五十メ

【七ページ目】

小麦播種 (□□き)

品種 農林十三号なり

点播

肥料、堆肥四十メ

下肥 六十メ

面積 二・十畝

畦巾 二・三尺

十一月三日

大麦播種 (平見)

点播

面積八畝

肥料

堆肥 二百三十メ

金肥 (配□ (合カ) (三)メ

畦幅 二・三尺

十一月三日

小麦播種 (隣やしき、けい土)

(隣やしき) 面積 二畝

堆肥 五十メ

配□ (合カ) 一メ

畦巾 二・三尺

(けい土)

面積二畝 (西瓜・メロン豫定地)

□□ (修播カ) 畦巾六・六尺

堆肥 五十メ

配□ (合カ) 一メ

十一月五日

□□ (稻刈カ) (□□□□ (夕本□カ))

二反三畝刈る

麦播種豫定地

十一月五日甲六日・七日

中おね 甘諸掘り□□□□

【八ページ目】

大麦播き(中おね)

面積九畝点播

肥料

大豆 二荷(肥桶)

配合 □□□

□(播カ)肥 三百メ

十一月十日

稲こき初め

同 二十三日

こき上げ

十一月十九日

田麦播き

□□□

品種 小南

面積 約九畝

肥料

←大麦 油粕(配合)

十□(五カ)メ トーマス

石灰岩 □□□三メ

堆肥 百三十メ

十一月二十日

田麦播き □□□、其の□の□(小カ) □

二畝□ 品種小南

肥料 点播

□□ 五メ

トーマス)一メ

石灰岩麦□)一メ

堆肥七十メ

十一月二十一日

田麦播き 通□□下

二□下の田

六畝 点播

肥料 品種大麦

【九ページ目】

トーマス)三メ

石灰□□な)三メ

堆肥 百メ

十一月二十四日

京菜播種定植

下肥 三荷

玉葱追肥

下肥 □□

麦追肥 隣やしき

甘藷 □下

木灰 二十メ

十一月二十五日

田麦播種(大麦)

面積一・九畝 点播

肥料

トーマス) 一・五メ

石灰□□) 一・五メ

大豆 三メ

昭和二十一年度

二月二十(マ)

馬鈴薯播種

面積 五畝(大畠)

品種 不明(赤)

肥料

下肥 二百五十メ

堆肥 二百四十メ

畦巾 二尺三寸

株間 一尺三寸

【十ページ目】

昭和二十二年

甘藷苗

五月二十七日

関東(農四) 千八百本

大白 三百本

□(沖カ) 繩 一百七十本

六月一日

大白 五百二〇

□(沖カ) 繩 二百三〇

関東 二千

六月四日(筆者注…ここから十ページ終わりまで横書き表示)

大白 780

□ (沖カ) 繩 214

関東 650

六月七日

大白 660

□ (沖カ) 繩 100

農四 270

六月十日

大白 600

□ (沖カ) 繩 120

農四 200

六月十三日

□ (沖カ) 繩 150

総計 8864本 (売約4400本)

計 13264本

【十一ページ目】
麦束数

小麦		大麦	小麦	大麦	計
隣屋敷 52	作付	6反	4反5セ	平み 29 27	56
新屋前 73	束数	485束	423束	中畦(東) 32 40	72
小屋前 19	俵数	30俵9升	17俵24升	庭下(東) 33 (西) 30	30
中畦(畝西割) 12.6 18	米換算	5石2斗	17俵		33
二略割 17	反当俵数	20俵 5俵	3俵9分	大畠 80	80
日陰 △品 } 104、34、54 192	其他	大小麦混り 1俵	昭南 10俵2升	小屋前 12 75	87
田圃 29	供出量	8俵	農五三 7俵1斗9升	中略 [しんやの畑] 35 [小屋ノ上]	127
上ノ山 23		□ (○に新) 1俵2斗3升	2俵	中略 (中ノ割) 92	
計 423			□1斗4斗 発動機の賃金2斗	中略 [しんやの畑] [西ノ割]	
	計				計 485

【十二ページ目】

玉葱(筆者注…左記数式部分は筆算で表記)

六月十八日 100×50円=5000円

六月十九日 5×50円=250

六月二十二日 8×60円=480円

六月二十四日 10×60円=600

六月二十七日 4×60=240

10×60=600

小計7170円

100×+37=137

137+98=235

235+外自給20=4略分255×…總貫

六月二十七日 25×60円=1500円

六月二十八日 25×60=1500円

八月二十日 15×100円=1500円

11670円 總売上

202×

【十三ページ目】

麦俵

大麦

七月十三日 三斗八升(種)

七月十九日 九俵

七月二十日 六俵

七月二十四日 十四俵二斗

=30俵9升(筆者注…横書きで表記)

小麦

七月十五日 昭南 三斗六升(種)

七月十六日 農五三 四斗五升(種) 本×

七月十六日 昭南 本×九俵一斗〇五合

七月十七日 農五三 六俵一斗八升

大小麦混ジリ一俵

=17俵1□(筆者注…破れ) 9升(筆者注…横書き

で表記)

馬鈴薯(供出量)

275× 6000匁

しんやの分 57メ 500
 ■さんの分 20メ
 (割当) 353メ 100匁
 計(実供出) 353 500匁
 総貫数 525メ 2反

月日	個数	貫数 匁	月日	個数	貫数 匁	
9月18日	99	50	8月5日	5	2	5-
	梢下口		〃13日	50	23	5-
	99	50	〃17日	107	50	5-
總合計	<u>1134</u> 個	<u>625</u> 貫 <u>300</u> 匁	〃27日	317	171	—
	1ヶ平均 550 匁		9月2日	132	76	2-
			9月5日	44	21	8-
			9月8日	8	4	5-
			9月9日	4	3	5-
			9月17日	7	4	4-
			9月18日	361	217	4-
			良口合計 1035		575メ	300匁

【十四ページ目】
 南瓜収穫表

【十五ページ目】
南瓜般買表

月日	個数	貫数 〆	貸額 円	月日	個数	貫数 〆	貸額 円
				8月13日	4	2	100
				8月15日	4	2	100
				〃20日	25	15	570
				〃25日	18	7	315
				〃27日	約280	150	7500
				9月3日	141	81	4500
				9月8日	4	2	100
				9月17日	4	2	125
				9月22	161	100	4000
					59	30	440
				10月2日	200	110	3200
					40	23	
				合計	940	525,5	20950 円

【十六ページ目】
昭和貳拾參年度
南瓜及西瓜

四月二十三日

床□(築カ)(株間 七尺五寸—四尺)

◎施肥

南瓜〓七略 下肥 百六十 〆

西瓜〓四略 下肥 七十 〆

堆肥 六十 〆

及メロン〓一略

四月二十七日

播種

南瓜〓3粒 二百七十株

西瓜〓4〃 百七十株

メロン〓4〃 七十株

六月一日

追肥 硝安 三 〆

南瓜 過石 三 〆

鶏糞 十六 〆

六月二日 一本立

西瓜及メロン			
米糠	鶏糞	過石	硝安
四	十	一	一
メ	メ	メ	メ

【十七ページ目】

六月十五日 麦乃間一杯

最長三尺位

南瓜總數量

五百五十メ

反当約八百メ

甘藷貯□(蔵カ)

山 東 大白 二一杯

西 農四 一三杯

南側ヨリ

1 大白 一〇・五杯 } 種子用

2 農林四 一□〃

3 大白 一三〃

4 大白 八・五〃

6	5
農四	農四
一一	一一
〃	〃

【十八ページ目】
甘藷苗（二十三年）

月	日	場所	大麦	小麦	月	日	農林四号	大白	□(沖カ) 繩	
6	7	平み	49		5	22	1000	800		
6	8	〃	23		〃	23	750	100	100	
6	10	〃	29		5	28	1000 980	650		
6	12	中畦	113		6	1	1340	470	150	
6	14	しんやの前	48 55		6	5	400			□(逆カ)(買) 500
〃	〃	隣屋敷	14 25		6	13	1450	800 200	120	500
6	21	南瓜及西瓜畠		38 40	6	15			120	
6	23	向山		{ 26 及懸下 42 25	6	18	5910		64	金時 22
6	24	大畠	47		6	24			60	
6	25	日影		{ 30 61		計	5920	3240	494	522
〃	〃	中畦(しんやの畑)	51		總計 10176 本					
〃	〃	上の山		21						
〃	〃	庭下		55						
〃	〃	大柿木畑		40						
〃	〃	庭								
計			403	392						

【十九ページ目】

24 年度	裸	大麦	小麦	小麦
	田圃 <u>11 束</u> (下の田)	大畠 26 束 17 束 72 束 105 〃 36 〃 計 <u>256</u>	45 <u>庭下 6</u>	1 俵 = 23 □ 湘南計 3 反 352 <u>15 俵弱</u> (2□) 1 俵 23.45 束 農林 53 号計 2 反 5 セ <u>309</u> <u>14 俵 3 斗 4 升</u> 1 俵 = 21.3 束
	しんやの前 102	二略割 17 束 21 〃 <u>38</u>	柿の木の畠 55 (農 53) <u>計 64</u>	1 俵 = 21.3 束
	<u>計 254</u> 1 俵 = 19 束弱	田圃 <u>32 束</u> 計 326 1 俵 = 16.3 束 2 反 7 セ 及 7 セ 18 俵 1 斗 2 升 1 俵 3 斗 <u>19 俵 4 斗 2 升</u>	上の山 25.29.32 (農 53) <u>計 86</u>	小麦合計 661 束
	<u>2 反</u> 及び 2 セ 13 俵 1 斗 6 升 <u>13 俵 1 斗 6 升</u>		日陰 86 平み 56.30 湘南	他 □ 9 セ
			△畠 20	<u>總計 1241</u> <u>1 町 2 セ</u>
			中畦(西) 80 〃 (東) 110 (農 53)	<u>29 俵 3 斗 2 升</u>
			向山 74	

【二十ページ目】

昭和貳拾肆年度

麦作付反別（筆者注…左記の表は縦書きを横書きに直した）

	播種	月日	場所	反別	品種
大麦	一一	一一	大畠	一反	金玉
	〃	一二	大畠	二セ	矢羽
	〃	〃	二セ割	二セ	〃
	〃	一七	隣屋敷	五セ	〃
	〃	一五	中畦(小屋の上)	一セ	〃
小麦	一〇	二四・五	向子山	〇九・セ	農五三
	一一	二	日影	〇二・五	〃
	〃	〃	〃	〇五・五	農五〇
	〃	〃	〃	〇四・	〃
	一一	一〇	山の上	〇八・	農五三
	〃	一五	平み	〇八・	〃
	一一	二一	しんやの前	〇八・	農五〇
	一一	二二	中畦(小屋の上)	〇・二・	農五〇
	一一	二四	中畦(西の割)	〇・六・	農五三
	一一	二四	〃	〇・六・	農五三
裸麦	一一	一六	庭下	〇五・五	三口
	〃	〃	柿の木の畑	〇四・	〃

【二十一ページ目】

甘藷蓄藏

切通北側ヨリ

籠数 予定~~ノ~~数

2	1		6	5	4	3	2	1	
		山の東側ヨリ	一〇	一〇	七・五	一	四	七	一
			関六	農一	関六	金時	大白	農四	農四
			一〇〇	一〇〇	七五 ノ	三〇 ノ	四〇 ノ	七〇 ノ	一一〇 ノ

【二十一ページ目】

昭和貳拾五年

甘藷苗

五月二十日

金時 三千四百本

農一 九百本

関六 一千三百五十本

五月二十五日

金時 一千三百本

農一 四百〇

関六 三百〇

米収穫高

7 反 8 七陸稲梗 264 束 10 俵

3 斗 2 升 (432 升)

3.2 七水梗 { 農 29
農 8

8 七水梗

五月二十七日

金時 十升八百本 一千百二十

農一 二百 十亩

関六

3 反 3 七

計 8 6 5 0

(筆者注…この部分に長方形にそれぞれ 8 × 22、
8 × 23 と示したメモあり)

大麦			
月日	場所	束	面積
6月7日	隣屋敷	57	5セ
〃	二セ割り	(矢羽) 22	2セ
〃	大畠(南瓜)	36	2.5セ
〃	小屋の上	8	0.5セ
		123	100
	(1俵=4斗415匁) (6俵,6升) (1俵当18.2束)		
6月16日	大畠	115	10セ
		<u>(4俵) 4升</u>	
		(1俵当28束) = (5斗2升)	

小麦			
月日	場所	束	面積
6月7日	日影(西瓜)	18	2セ
6月8日	上の山	28	4セ
6月16日	向ふ山	70 (50号)	9セ
6月17日	平み	93	8セ
〃	日影	50	5. □セ
〃	上の山	22	
〃	新屋の前	90	8セ
〃	中畦(西)	50	8.5セ
〃		24	178束
〃	中畦(東)	104	9セ
〃	屋敷	7	1セ
		556	5反5セ
378束 = (53号) = 3反9セ → <u>14俵1斗</u> (1俵当26.5束) = (4斗6升5合)			

反当収	總計 <u>896 束</u> = 8 反 4 セ		
	<u>37 俵 7 升</u>		
	外口ソ 1 俵		
	反	俵	
裸	0.9	5	
小麦	50 号	1.7	4.7
	53 号	3.8	3.75
大麦	天羽	1.0	6.15
	金玉	1.0	4.1

裸麦			
月日	場所	束	面積
6 月 7 日	庭下	55	5 セ
	大柿の木	47	4 セ
		102	9 セ
(4 俵 2 斗 6 升) = (4 斗 6 升)			
(1 俵当 26.6□ (弱カ) 束)			

【二十四ページ目】

廿五年度

西瓜南瓜收穫

西瓜

七月中 二ヶ

八月一日 約一〇ヶ 十四メ七〇〇

八月四日 三〇五ヶ

八月四日 二五ヶ

八月七日 約二〇ヶ

八月八日 二二〇ヶ

八月十日 約七〇

計約六百五拾貳個

賣上 約六百個

手取 約一万九千四百六拾四円

七百參拾六円

計二万二百円也

南瓜

七月中 約二〇ヶ

八月一日 五七ヶ 三十メ

八月四日 七〇ヶ
 八月八日 二一〇ヶ
 八月十日 約六〇
 八月一九日 七〇

計約四百八拾七個
 賣上 人約四百五拾個

〔七千三百拾五円〕

【二十五ページ目】

二十五年年度

甘藷貯藏

北ヨリ 籠数

- 2 十杯 (関六) □ (約六メ)
- 3 十二ヶ (農一)
- 4 十三ヶ (関六) □ (約六メ)
- 5 十ヶ (金時) □ (約五メ)
- 6 九ヶ (金時)

小麦種 ■へかす

二十五 □ □ □

升で九升 (六升 三升) 一サハ三百四十匁

陸稲収穫量

陸稲五号

向ふ山 九セ 六七束 百五五束
 上の山 五セ 四七束 九俵 (本メ)
 日影 六セ 四一束 一斗四升
 陸梗一号
 隣屋敷五セ 三八束
 一俵三斗八升

水梗

一反二セ (大きい田)
 二反
 豆洲梗 五・五セ
 農八 三七

【二十六ページ目】

二十五年年度麦

小麦施肥料(元肥)

(しんやの前乃畠)

堆肥 三百十メ

硫安 五メ

過石 五メ

加里(塩化) 一・五メ

鶏糞 二十メ(二・五俵)

種子□ 二・七升

二十七年年度自給肥料単□(筆者注・左記より昭和廿七

年度まで横書きを縦書きに

改めた)

◎

堆肥 10メ 20円

下肥 10メ(1本) 35円

草木灰 6メ(1俵) 200円

メロン(約3セ)

194株

西瓜

種無(約1反)

259株

旭(約4.5セ)

187株

計446株

昭和廿七年度

種無西瓜及

種有西瓜並メロン1反7セ

【二十七ページ目】

二月二日

一、元肥を床せる(土反分)

焼粕 六俵 (一俵五十円・割) 三百円
 米粕 五斗 (八百円)
 過石 二メ (百十円)
 下肥 約五十メ (百二十五円)

1335 円

ボカシ

1人

土(縁の下) 一斗三升
 堆肥 二斗 (三メ)
 焼粕 一斗 (二メ)
 米粕 五升 (二メ)
 過石 一メ

55 円
 80 円
 10 円
 6 円

151 円

一、捨肥

3人

石炭窒素 三俵 (十八メ) 13325円
 ◎ 耕

藁鉢代 六百七十五円 (二ヶ 一・五円の割)

鉢土代百円 (主として燃料代)

計費		
	量	代金
種子無西瓜	300 粒	1500 円
種有西瓜 (朝日 A 号)	5 勺	750 円
メロン (自家菜種)	3 勺	60 円
パラピン残	250 枚 (4 円) 400 枚 (480 円)	1000 円 3840 円
消毒薬	{ ウスプルン } 代 { ボルドー液 }	約 2ヶ 250 円
硝子障子	3 枚 (840 円)	<u>2520 円</u> 10695
草木灰	2メ (ホーサン, 30 匁)	約 80 円
硫安	3.5メ 過石 5メ	= 690 円
追肥	第一第二回分	4116 円 8メ目分
同	メロン 1 分	= 2390 円

【二十八ページ目】

其他□安□□□ (三カ)号種子

交際費等五百円

四月十日 床の踏込み

四月十三日 播種

メロン第一回追肥分

粕 四 一千元

硫酸 二 二〇五円

過石 三 一九五円

加里 一 一〇〇円

鶏糞 一 三〇〇円

1860
円

2360
円

配合配給肥料代—内八ノ茄子胡瓜分

鶏糞 五俵 一五〇〇

第一回種無 三九二七

旭 一三五二

第二回 込み 五五二〇

八九六

13195

全掛り 出荷諸経費	
収入	箱代 500ヶ 6600円 (1箱13円20銭)
メロン 10166円	(95箱分1254円)
西瓜 11859.95	バラピン (青) 20枚 126円
農 西瓜 16233.一	木目代 800匁 84円
38258.95	針代 200匁 66円
支出 35492円	新聞紙代 若干
2766.95	レツテル代 500枚 650円
	其ノ他 100円
人工 72.3人	荷札 604枚 604 (1枚1円)
メロン 194株	シール 1960枚 294円 (1枚15銭)
95箱	俵代 72俵分 1728 (1俵24円)
ナシ 259株	縄代 1玉 100円
765ヶ 630≧580匁	ゴム印 1ヶ 20円
旭 187株	其ノ他 (新聞紙麦藁等) 100円
340ヶ 331≧500匁	
	西瓜 2846円
	全支出 35492円
	+ 5346円 一残箱
	40838

【二十九ページ目】

二十七年 度 反 当 約 十 七 畝 三 千 円 肥

陸 稲 施 肥 料 二 反 一 七 一 五

種 子 代 約 六 弁

ホーサン使用十五匁

鶏糞 一〇俵 三千四百円

醸安 一〇メ 千五百円

過石 十五メ 九百七十五円

加里 四・五メ 五百四十円

種子 約六升 四百二十円三百円

進肥

(向ふ山) 醸安二メ 三百十円

(大畠さい割) 醸安二・五メ 三百六十三円

過石 七百匁 四十六円

大きい進肥 醸安三メ 過石一メ 三百八十二円

醸安四メ七百 四百九十円

反当約四千七百円

甘藷肥料

種子代 約六十メ 三六〇〇円

鶏糞 十四俵 四千七百六十円

草木灰 十俵 二千円

石灰□ 二俵 一千五百円

加里 九メ 一千八十円

過石 三メ 百九十五円

ウスプルン消毒種子

馬鈴薯(二・五七) 籠其の抱装代 〃

種子 十メ 八百十円

鶏糞 一俵 四百四十円

堆肥 百メ 二百円

下肥 百五十メ 三百七十五円

過石 一・五メ 九十七円

焼糠 十メ 百円

手間 五・六メ

計 2037円 (筆者注・横書きを縦書きに改めた)

【三十ページ目】

□ (○に田) 四反歩

水稻肥料其の他

耕耘(耕運機) 三千円

苗代(約二・五七)

草木灰 三俵 六百

堆肥 八十メ 百六十円

下肥 七十メ 百七十五円

過石 一メ 六十五円

粉□代 一斗二升分 一千

(約一反二七分) 細かい田

鶏糞 七俵 一千六百八十円

硫安 三・五メ 三百六十八円

過石 三・五メ 二百二十八円

加里 六百匁 七十二円

(約一反二七分) 大きい田二口 (枚カ)

下肥 六百三十メ 千六百五十円

過石 十五メ 九百七十五円

加里 二・五メ 三百円

(約一反六七分) 暗キヨした田及早手田

粕 十六メ 四千円

硫安 十メ 一千五百円

過石 十三メ六百 八百八十四円

加里 七百 八十四円

追肥

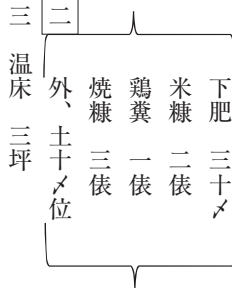
硫安五メ 五三五円

【三十一ページ目】

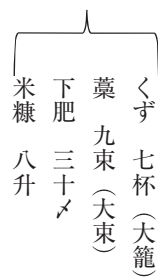
昭和二十八年年度

西瓜及メロン施肥量

一・ボカシ肥



29 度位



四 植付床

ボカシ 1—3

過石 八メ

ク (メロン) 二メ

五 播付床 (但しメロン)

過石 二メ

植付	5月4日—一種無	245株	} 15反● (ママ) セ
	5月● (ママ) 日—一種有	153株	
	5月3日—白露地	249株	} 4.5セ
蒔付	4月17日	メロン 145株	

施肥 硫安 一ノ

二. 全面散布及施肥 (筆者注: 十四行前の三へ矢印)

石窒 三俵

石灰 四俵 (六ノ俵)

米糠 四俵

鶏糞 四・五俵

木无肥 六. 輪肥

硫安 二ノ

【三十二ページ目】

七. 輪肥 (第二回)

木无肥 硫安 二ノ五〇〇

八. 一番肥 (配給)

配合 四十八ノ

(メロン) 化成 十三ノ

灰 七ノ

硫安 五ノ



九. 追肥臨時

硫安 三ノ

十. 二番肥

配合 二十八ノ

追過分

油粕 (菜種) 四ノ

硫安 一ノ

過石 一ノ

加里 一ノ

化成 十ノ

硫安 四ノ

草木灰 七ノ

メロン

□□ 三十四ページ目
 播種期 九月上旬

【三十三ページ目】(筆者注・記載なし)

ビニール 24 尺分 (566 円) 291 円 (障子 1 枚分 97 円)
 障子框 3 枚分 500 円
 温床用枚 (床 2 坪) 1600 円
 種子代 (ナシ 1 粒 320 円□アリ□ 150 円) 1718 円
 パラピン代 375 枚分 1125 円
 ♪ 150 枚分 900 円
 素焼鉢代 400 ケ 1200 円
 藁鉢代 350 ケ 350 円
 空俵代 (120 俵) 1 俵 25 円 ~~3500~~3000 円
 種子代 (メロン) 100 円
 種有のシール (500 枚) 85 円
 消毒薬 □□□ 70 円
 □ (石偏に化) 酸石灰 200 円
 ボルドー 200 円
 計 一 一 三 三 九 円

注意□□

寒さ□ □ ぎ□る堆肥を施し

寒さ□□ けをふせぐ事

【三十五ページ目】

100
 20
 160
 300
 50
 150
 130
 80
 50
 300
 100
 50
 250
 60
 200
 60
 230
 50
 2320

三、解説

さて、本章では「農作物日記」に記述された記録から、昭和二十年(一九四五)〜昭和二十八年(一九五三)の暮らしについて報告しつつ、既刊報告書(川崎市立日本民家園(編)二〇〇七)などと対照し若干の検討を加える。

(1) 構成

全体の構成について確認しよう。資料概要で先述したように、総ページ数三十六ページのうち、主な記載

があるのは三十五ページまでである。

一ページの記述は昭和二十年（一九四五）の九月から始まる。昭和二十年は一ページから九ページの途中までであり、九月から十一月にかけて日付とともに作業内容が記述されている。

九ページの途中には昭和二十一年（一九四六）の記録があるが、二月の記録のみである。

十ページからは昭和二十二年（一九四七）の記録であり、五月から八月にかけて、日付とともに作業内容を記述している。昭和二十二年度の記述の特徴としては、表を記載しはじめることである。十一ページ、十四ページ、十五ページにかけて収穫表などの表が記載されている。

十六ページから十八ページは昭和二十三年（一九四八）の記録が始まる。十六ページや十七ページを見ると、日付の間隔があいており、昭和二十年の記録と比べると、記録量の密度に差があるといえよう。

十九ページから二十一ページは昭和二十四年（一九四九）の記録である。昭和二十四年は日付と作業内容を詳しく記述することはず、麦の作付反別や米

の収穫高の記載にとどまっている。

二十二ページから二十六ページの途中までは昭和二十五年（一九五〇）の記録である。作物ごとに日付と作業内容を記す方法がとられている。

二十六ページの途中から三十ページまでは昭和二十七年（一九五二）の記録である。昭和二十六年（一九五一）の記録については記載を確認できなかった。

三十一ページからは昭和二十八年（一九五三）の記録が始まる。三十五ページは計算用のメモのようなものが記載されており、どこまでが二十八年の記録かは定かではないが、少なくとも三十二ページまでは昭和二十八年の記録だと考えてよい。

（2）農作物

農作物について確認する。資料内で確認できたものは、左記のとおりである（原典ママ、順序不同）。

玉葱、西瓜、白菜、大根、馬鈴薯、シヤクシ菜、
京菜、ほうれん草、葱、大豆、陸稲、小麦、大麦、
南瓜、甘藷、西瓜、メロン、田麦、水粳、裸麦、ナ

シ、水稻

このうち、甘藷は金時、大白、関東、農四、関六を栽培していた。小麦では小南、農林十六号を栽培していた。

さて、当該資料は戦後の昭和二十年から記述が始まる。当時の農作物の様子はどうか、既刊報告書を見てみよう。

昭和十九年（一九四四）に食糧増産計画が出されると、養蚕をやめて桑の木を伐り、切り株のあいだにジャガイモ、麦を植えた。この畑は終戦直後などは驚くほど作物ができた。桑のあいだに毎年肥料を入れていたため、土が肥えていたのである。アンモニアを手で撒いたぐらいで、ジャガイモもとても大きいものが採れた。供出で割り当てられた量の倍ほど採れ、消費しきれないので、余った分を東京まで運んで売った。サツマ（サツマイモ）もよくできた。また、戦後の数年間はソバも作っていた。

戦後の食糧難が終わると、桑畑だったところにモ

モなどの果樹や幾種類もの野菜を植えるようになった。養蚕をやっていたときより忙しくなった。

昭和三十年（一九五五）ごろからは種なしスイカやメロンの栽培を始めた。しかし、手間がかかる上収穫が少なく、やめてしまった。（川崎市立日本民家園（編）二〇〇七・二二）

戦時中に養蚕をやめて、食料となる作物の栽培に切り替えたわけだが、これを裏付けるように当該資料の中では桑に関する記述はない。昭和三十年ごろから種無しスイカやメロンの栽培を始めたところがあるが、二十六ページなどに種無しスイカを栽培していた記録が、十六ページなどにメロンを栽培していた記録がある。七ページには「面積二畝（西瓜・メロン豫定地）」とあり、スイカやメロンをより多く栽培しようとしていたことがうかがえる。

また、戦後の数年間はソバも作っていたとあるが、今回は確認することはできなかった。

陸稲や水稻については、「オカブ（陸稲）もたくさん作った。水稻はいくらか売ったが、オカブの方は出荷し

なかった」とある〔川崎市立日本民家園（編）二〇〇七：二二三〕。三ページには昭和二十年の十月十六日に稲刈り、十七日に稲上げ（揚げのことか）、十九日に稲抜きを行っている。

（3）肥料

さて、当該資料において、施肥などのように肥料をあげている描写がみられる。それでは、肥料は何をあげていたのか、例示してみよう（原典ママ、順序不同）。

堆肥、下肥、硫安、トーマス、石灰岩、硝安、過石、
鶏糞、米糠、加里（塩化）、種子□、草木灰、焼粕、
米粕、醸安、くず、藁、石窒

硫安は硫酸アンモニウム、硝安は硝酸アンモニウム、過石は過リン酸石灰、加里（塩化）は塩化カリウム、石窒は石灰窒素のことであろう。

民家園には、農作物日記とあわせて、下肥の運搬に使用したコイダル（2021-001-199-1・2）や、まくのに

使用したネリヒオケ（2021-001-200）、汲み取りに使用したコエビシヤク（2021-001-202）、堆肥用の改良万能鉄（2021-001-203）などが伊藤家から寄贈されている〔川崎市立日本民家園（編）二〇二二：一七〕。農作物日記の一ページなどにおける堆肥や下肥などの肥料の記録からは、前述の民具たちが実際にどのようなに使われていたのかを窺い知ることができる。

（4）地理認識

地理認識について、当該資料内には「大島」の記述がみられる（三ページ目、昭和二十年十月十日など）。戦前期の記録にも大島は確認できる〔真保二〇二四：一一三（九四）〕。記述が重なる箇所はあるが、報告書では、裏山の反対の斜面に畑があり、離れたところを通る道までずっと広がっていた畑をオオバタケと呼んでいた。ここは昭和十九年（一九四四）までは桑畑であったが、その後サツマ（サツマイモ）や小麦を中心に野菜などを育てていた〔川崎市立日本民家園（編）二〇〇七：二三〕。

報告書内では戦前期は桑畑、その後サツマイモや小

麦を中心に野菜を育てていたとあるが、当該資料でも馬鈴薯（九ページ目、昭和二十二年二月）、大麦（十一ページ目、昭和二十二年）を栽培していることが確認できる。

（5）その他

その他、資料の特徴としては、字の書き方にある。九ページ途中までの昭和二十年の記録に比べ、九ページ途中からの昭和二十一年の記録は字の体裁が整っているようにみえる。これは余裕を持つて書くようになったからか、理由は定かではないが、書誌的な考察をしていく余地があるといえよう。

また、十五ページの表は元から後半部分に記入が行われていなかったことを付記しておきたい。

ここまで、本章では「農作物日記」の記述から読み取りうる情報のいくつかを拾い、既刊資料との照合を試みた。「農作物日記」は戦後期の複数年度にわたる農作物の栽培状況が記載されており、当時の多摩丘陵の農家の農作業の具体的なありようが浮かび上がってく

るといえよう。

おわりに

本稿では、伊藤家の昭和二十年度から二十八年度の農業が記録された文書「農作物日記」の翻刻と若干の解説を試みた。本資料は、筆者がこれまで取り組んできた昭和三十三年度の農業記録〔真保二〇二二〕、昭和十一〜昭和十五年度の農業記録〔真保二〇二四〕とあわせて検討していくことで、多摩丘陵の農業が戦前から戦後、高度経済成長期にかけてどのように変遷していったのかを捉えることができる。本稿までを基礎研究とするならば、変容をたどっていく応用的研究を進めることを、今後の課題とする。

謝辞

本稿の執筆にあたり、伊藤家現当主の伊藤廣一氏に多大なご協力を賜りました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

注

- (一) 図1参照にあたり、「今昔マップ on the web」(C)谷謙二)を参照した「谷 二〇一七」。

参考文献

- 川崎市立日本民家園(編) 二〇〇七 『旧伊藤家住宅 日本民家園取蔵
品目録八』 川崎市立日本民家園
- 川崎市立日本民家園(編) 二〇二二 『旧伊藤家住宅 日本民家園取蔵
品目録八 補遺』 川崎市立日本民家園
- 真保元 二〇二二 「川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「防除
の志おり」の翻刻と若干の検討―多摩丘陵の農家の一年
を探る資料として―」『常民文化』四六
- 真保元 二〇二四 「川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「種苗
日記帳」―翻刻と若干の考察をともに―」『常民文化』
四七
- 谷謙二 二〇一七 「今昔マップ旧版地形図タイル画像配信・閲
覧サービスの開発」『GIS―理論と応用』二五(一)